



# オーストラリア直送レポート

**Vol.9**

2016.8.17 地元小学生とのケミストリー！作ったお寿司はアンビリバーボ【DS】

緊張の市長さん表敬訪問【PS】

- ドリップストーン校グループ／教育委員会社会教育課：林  
(引率教諭) 吉備中学校：西岡
- パーマストーン校・ローズベリー校グループ／教育委員会社会教育課：宮地  
(引率教諭) 白馬中学校：熊ノ郷

【DS】今日も昨日に引き続き、朝からDS校でホストブラザー/シスターとの学校生活が始まりました。ただし、今日の授業は、午前中は12組に分かれての変則授業です。それは、朝からDS校に地元の小学校5校から小学生が学校見学を訪れていたからです。研修生は、各組に分かれて小学生たちをエスコートする役目になっていました。具体的には、小学生の見学に合わせてDS校ではサイエンスフェアを開き、DS校の生徒が日ごろ授業の成果を説明する内容です。研修生は、小学生のエスコートやDS校の生徒から説明を受けていました。今までの授業形態とは異なる状況下で、戸惑う研修生もいれば率先してDS校の生徒や小学生をサポートする研修生もいました。日本の中学校では見かけない公開授業なので、どのようになるのかと思いましたが、DS校の生徒は積極的に小学生に声をかけたりするなど同じ中学生でも頼もしく思いました。

サイエンスフェアの後は、DS校の生徒と一緒に、クッキング授業に参加しました。このクッキング授業は、日本の食事をテーマに掲げておにぎり、寿司、卵焼き、味噌汁、そしてなぜかクリスマスケーキ作りを行いました。DS校の先生からは「研修生の皆さんが先生」との掛声を頂き授業がスタートしました。各グループに別れての自己紹介も、さすがに研修生は慣れた様子で行っていました。しかし、その後の調理作業では普段から料理を行っていないのか、ぎこちなさが目立つ研修生が数多く見られました。DS校の先生や生徒に味の感想を聞かれて答えに困りながら「んー美味しい」、「へんなおみそ汁」と言ったりしていました。せっかくの日本食を紹介できる場面だったので、積極的にアピールをして欲しかったです。また、片付けをせずに部屋に戻ってしまう研修生もいましたが、ある研修生は「料理は片付けも含めて料理」と言って片付けを行っていたので少し安心しました。

昼食後は、美術の授業に全員で参加しました。この授業では、アボリジニーアートを元に、オリジナルのフォトフレームデザインを行いました。この時に改めて感じたのは、日本の研修生達はすぐに「どうすればいい?」「どんなデザインを書けばいい?」など、自分で考えずにすぐ質問する姿勢が多いと思いました。DS校の生徒は基本的に、自主的に制作し、質問する内容も「こうしたいが、どうする方がいいか」などの提案型の質問が多いように思います。このような、まず自分で考える姿勢を研修生達にも見習って欲しいと思います。(林)

今日は校内研修だったのですが、ドリップストーン周辺の小学生が理科の授業を見学する日だったので、少しいつもととは違う変則的な時間割となりました。研修生は、いつもの1グループを3つのグループに分けて合計6グループで理科の授業を受けることになりました。2時間の理科を受けた後は、家庭の授業で調理実習を行いました。作る料理は、なんと日本食！おにぎり、寿司、お味噌汁、卵焼き、クリスマスケーキの中から好きなものを選んで作ることができました。これは活躍の大チャンスと思い、研修生の様子を見ていたのですが、料理をあまりお家でお手伝いをしていない研修生が多く、多くの研修生が活躍のチャンスを逃してしまいました。この調理実習を通し、日本料理を作れると自分の武器になると知ることができた研修生は、きっと帰国後にお家の人の料理のお手伝いをすることでしょう。「先生、昨日料理の手伝いしたで！」という声を帰国後に学校で聞けることを楽しみにしています。調理実習の後は、外で体育の授業を受けて、バスケットボール、サッカー、バレーボールを楽しみました。そして昼休憩をはさみ、最後に美術の授業を受けて、今日の校内研修は終わりました。

こちらの生活に慣れてきた様子で、先週であれば戸惑っていた売店での商品の購入やドリップストーン校の生徒との会話も、とても堂々とできるようになっていました。確かな成長を感じ、とても嬉しく思いました。一方で、久しぶりの校内研修であったせいか、全体的に積極性に欠けた1日でした。理科の授業ではいつもとは違う体験型の授業に戸惑い、受け身になっている研修生が多かったです。疲れもあるとは思いますが、頑張っても残り2日です。しっかりと体調管理をしつつ、全力を出し切ってほしいと思います。私も研修生に負けないように、帰国後に生徒に少しでも多くのことを伝えられるように、残りの貴重な期間を過ごしていきたいと思います。吉備中生、You all can do it, hang in there! (西岡)

【PS】今日は久しぶりのパーマストーンシニアカレッジに行きました。午後は、パーマストーン市長さんにお会いしに行くので、学校での授業は2時間だけでした。S&Cというクラスで、人間関係の構築や、文化を学ぶというようなニュアンスの授業でした。まずは、体育館で2チームに分かれてペアを作り、バスケットボールを使ったゲームでした。ルールがよく分からないままに、研修生達は現地生徒とペアを組み、取り組んでいました。

次は、綱引きをしました。研修生で3チーム作れと言われた時は、中学生と高校生の差、さらには体格の差が大きいので勝負にならないと心配していました。が、現地生徒達の3チームと混ぜたのでチーム編成だったので一安心といった感じでした。チームができれば、Ready Go とさっさと始まり、みんな勝ち負けに一喜一憂していました。この様子を見て、以前から感じていたのですが、オーストラリアの生徒達は言い訳をしないと思いました。日本で綱引きを授業とする場合は、必ず両チームの人数や男女比を気にすると思います。ここでは、人数が少なからうが、多からうが気にもしません。そして一生懸命するわりには、負けてもあっさりしています。良いか悪いかは別として、日本との違いを感じました。

綱引きの後は、バスケットをするグループと、英語のゲームをするグループにわかれしました。暑かったからか、研修生達は全員英語のゲームをするグループに入りました。教室では、教科書に出てくるような英語と、オーストラリアならではの俗語を書いたカードを一人1枚ずつ配られ、同じ意味を持つカードの人を探してペアになるというゲームでした。研修生達

は、現地生徒達に積極的に話しかけながらペアを探していました。残り時間は、教室で用意してくれていた折り紙をしました。現地の生徒達が覗き込む中、鶴を折ってプレゼントをする研修生達の姿は、事前研修時にイメージしていたとおりのものでした。

午後は、パーマストーン市のアボット市長さんを表敬訪問しました。パーマストーン市は有田川町と姉妹都市提携を結んでいる市で、市長は昨年、有田川町にいらっしゃいました。事前に失礼のないようにと伝えていたので、緊張している面持で市役所へ到着しました。市役所には、有田川町の写真や日本のものがショーケースに飾られていて、とても友好的な感情を持っていてと感じることができました。会議室に案内され、「毎年、有田川町の研修生が来るのが楽しみだ」と言っていただきました。事前に各自で考えていた質問にも全て丁寧に答えていただきました。ジュースや、サンドイッチ、お寿司まで用意して下さり、研修生達はとても喜んでいました。帰り際には、生徒達にメイヤーの証である首飾りを掛けさせてくれたりと、とても親切で気さくな市長さんでした。パーマストーン市は非常に若い世代が多い都市で、これから発展していくであろう町です。これからも友好な関係が続くことを期待します。明日はダーウィン市で校外学習です。異国の町の空気を堪能してくれたらと思います。(宮地)

すっかりオーストラリアの学校になじんでいる子供達。授業の空き時間には、自主的に研修ノートを書いたり、オーストラリアの生徒にあげるために折り紙を作ったりするなど、自分ですべきことを考えながら行動出来るようになってきました。

パーマストーン市庁舎の訪問では、一人ひとりがパーマストーン市について英語で質問をしました。こちらでの生活が始まった頃は、英語を話すことに恥ずかしさがありましたが、今では、自信を持って英語で発言できるようになりました。市庁舎では、子供達のために、寿司を用意してくれていました。久しぶりの日本食に子供達はとてもうれしそうでした。きっと日本食が恋しいだろうと思い、用意してくれていたのでしょう。パーマストーン市の市長さんを始め、スタッフの皆さんの心配りを大変ありがたく思いました。

子供達の現地校での研修もあと2日となりました。貴重なこの時間を大切にさらに多くのことを学んでほしいと思います。(熊ノ郷)

(写真を次ページに掲載しています)

